



▲床一面に貼られた四国の地質図の上でメンバーたちと。

近藤先生の笑顔が
研究室の癒しに
なっています。

この瓶の中に
入っているものは
何なのでしょう？



古生態学の近藤です！ 1959年
に岐阜県で産声をあげた私は、学
生時代から地学に没頭？静岡大学、
東京大学大学院、日本学術振興会
特別研究員(京都大学)、千葉県立
中央博物館研究員を経て、平成3年
4月に高知大学に赴任しました。
この21年間、学生たちとともに、
地球の歴史を振り返りながら、さま
ざまな底生動物の生態と進化につ
いて研究を重ねてきましたが、まだ
まだ興味は尽きません(笑)。
[教員:近藤 康生]



古生物の歴史を地球規模で探る！

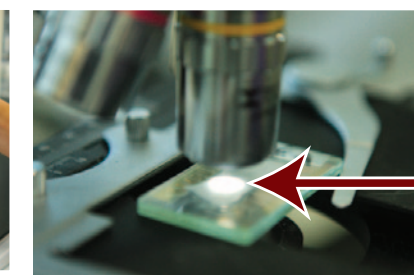
高知大学理学部では、近藤康生(古生物学、二枚貝)、岩井雅夫(微古生物学、珪藻)、奈良正和(生痕学)が、全国津々浦々から集
まった学生とともに、化石を通じた古生物学の研究を行っています。

海の底で生活する底棲動物や生物活動の痕跡(巣孔・糞)、それら底棲生物の餌となった植物プランクトンは、化石として堆積物や
地層に記録されます。堆積物や地層中の化石は、私たちがタイムマシンにのせて過去の地球の姿を垣間見せてくれます。今では考え
られないような世界がかつて地球上に存在し、現在私たちが生活する自然界は、過去の地球環境や生物進化の歴史上に存在している
ことを実感させてくれます。

私たちの仕事(研究)は、地層から化石をとりだしそこから地球環境や生物の進化史を掘り起こすことです。そのためには野外にでて
地の果て、海の底にも足をはこびます。顕微鏡下の宇宙観察や模型作りに没頭したり、時には海洋コア総合研究センターの協力を得て、
化石を煮たり焼いたりもします。化学分析のこともですよ、食べるわけじゃありません(笑)。

さあ高知で地球の自然を感じ、知のマイニング(探掘)をしませんか？人類が歩むべき道を化石生物がたどった道に学びましょう！が、本研究室が目指すテーマの一つでもあるのです。

海底の固い泥を
漂白剤で溶かすと、
成分の分類が
しやすくなるのです！



▲化石の顕微鏡観察

◀観察用プレパラ
ートスライドで準備
しています。

▶高知大学で、古くから
継続的に研究をしてい
る九州天草地域で採
取した二枚貝化石。



▲海底の堆積物中の微化石(プランクトンの遺骸)を小分けにしています。



▲化石のクリーニング

▼地球の歴史が一つに刻まれた化石群…
太古の浪漫を感じますね。



うーん
デカいし重い！
マンモナイトの化石を抱えて…。